

BP 社アンゴラ PSVM 鉱区向け FPSO 生産を開始

2013 年 2 月 19 日

三井海洋開発株式会社(社長:宮崎俊郎)が英国の石油開発会社 BP Exploration (Angola) Limited (以下「BP 社」) から受注し、建造・据付を行っていた FPSO (Floating Production, Storage & Offloading System:浮体式海洋石油・ガス生産貯蔵積出設備)は、2012 年 12 月 6 日に原油の生産を開始しました。現在までに350万バレルの原油積出を終了しており順調に稼働中です。

"FPSO PSVM" と命名された本 FPSO は、BP 社が開発権を保有するアンゴラ沖 Block 31 鉱区内の Plutao、Saturno、Venus 及び Marte ("PSVM") 油田の開発に用いられ、日量 15 万 7 千バレルの原油生産能力、日量 245 百万立方フィートのガス生産能力、日量 30 万バレルの水圧入能力及び約 170 万バレルの原油貯蔵能力を持ち、当社の米国子会社 SOFEC, Inc.社が設計した External Turret (エクスターナル・タレット)と呼ばれる方法で、水深約 2,000m の海上に係留されています。アフリカ海域でこれまで据付けられた FPSO としては最も水深が深くかつ大規模な海底油田からの開発になります。

本 FPSO は当社にとりましてアンゴラにおける初めての FPSO 案件であり、当社は今後もアンゴラを含めたアフリカにおけるさらなる案件受注に注力して参ります。





問い合わせ先
三井海洋開発株式会社 総務部 山下（電話 03-5290-1200）